

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

令和5年度 徳島県立ひのみね支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立ひのみね支援学校長 平岡 充栄

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	平岡 充栄 中村 敏恵、原田 真由美
学力向上推進員	教諭(教務課長) 教諭(学部長)	福崎 久美 (小)福原 薫、(中)宮本 洋子、(高)谷口 夏紀
委員	指導教諭(研究課長) 教諭(人権進路課長) 教諭(教務主任)	山田 千代 原田 真理 (小)片寄 恭代、(中)豊田 尚子

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(全学部・全学年) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況		
よさ	これまでの学びや経験等により習得した動作、感覚をいかして、興味関心があることや楽しいこと等意欲的に活動できる。保護者や関係機関等の支援を受けて、健康に留意し活動に取り組んでいる。	課題 支援を受ける経験が多く、受け身になりやすい。生活に制限が加わる場面も多いが、より多くのことを知ったり経験する機会を増やしたりして、主体的に生活する力をつけたい。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
友だちや教員と関わり合い、自分の力を発揮して表現したり伝えるなどして、言語活動を中心とした経験や学習に興味関心を持って取り組む。	個別の指導計画において、2、3学期の「国語」の目標で「十分達した」「達した」という評価を80%以上とする。	成果指標については、小学部100%、中学部75%、高等部100%、全体として約90%が目標を達したと評価した。 ----- 評価 A
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
1. 学習の実態や個々の目標や評価を検討し、重複障がいのある児童生徒の国語(合科学習を含む)の授業実践に取り組む。 2. 育成を目指す資質、能力に基づく学習評価のあり方についての研修に取り組む。 * 中間期の見直し	①国語(合科学習を含む)の授業に取り組んだり、授業実践の協議に参加したりする。 ②夏季休業期間を活用し、講師を招聘し、学習評価のあり方についての全体研修を行う。	①夏季休業中に、1学期の国語の授業の見直しを全体で実施した。また、各学部で公開授業、検討会を実施した。 ②夏季休業中に、県外の大学から講師を招聘し、学習評価についての全体研修を行った。
達成状況を踏まえた改善事項		
児童生徒の学びを伸ばすために、児童生徒の実態に応じた教科指導の工夫は今後も継続して実践する必要がある。校内で実施される研究授業や研究協議を活用し、教員の専門性の向上をはかりたい。		